

WEST PRESS 4



DISCUSSION WEST meets Felix Claus

「日本はお金ではなく、ものを大切にするように見える。日本のものづくりの力を生かして何ができるか考えた」

建築家・梅林克が同業者として興味を持つ建築家たちを訪ね、ディテールに対する考え方や設計手法を聞くシリーズ。第4回となる今回は、オランダを拠点に活躍する建築家、フェリックス・クラウスが自ら設計を手がけた東京の自邸を訪ねた。トラックと同じおさまりのアルミコルゲートで包まれた箱を積み上げた、即物的な建物だ。東京らしいミニマルなスケール感と、およそ住宅らしからぬニュートラルな存在感をあわせ持つこの建物は、いわゆる狭小住宅とは異なる佇まいを持っている。この小さなプロジェクトはクラウスにとって“スケール”や“ものづくり”の実験の場であったという。母国では巨大開発を主に手がけるクラウスは、東京とヨーロッパにおける建物のつくり方の違いをどう捉え、どのように他のプロジェクトに生かしているのだろうか。

梅林 こちらの建物の外装は、素材からおさまりまでトラックと同じ形式なんですよ。私のオフィス「ORGAN」でも同じ素材を使っていますが、使い方が違うので新鮮です。

クラウス 宅配便のトラックのように、今にも動き出す感じにしたかったんです。ヨーロッパの場合、建物は土地と密接につながっていてパーマネントな印象になりがちです。東京でつくるなら、軽くテンポラリーな存在感にしようと思えました。

梅林 なるほど。ヨーロッパと日本では、建築のつくり方はどう変わってきますか？

クラウス 資本主義的な西洋国家、つまりアメリカやイギリス、オランダなどでは数値化されたものをとにかく重視します。一方日本は逆で、お金ではなく、ものを大切にすることが多い気がします。この両方の文化を体験するのは、刺激的ですね。

梅林 日本では安いだけでは評価されませんよね。良くなければなりません。

クラウス そしてヨーロッパで重視されるのは、都市や公共空間です。建築家がつくるものには、必ず公共空間との関係が求められます。日本では多くの建物がプライベートなものです。サイズ、マテリアル、タイポロジーといった各要素に、パブリックかプライベートか、という差異があると感じます。

梅林 狭いスペースの中で親密さをつくり出すのが、東京の小さな住宅の特徴ですね。

クラウス 建築は知的で抽象的なものですが、最終的には身体的な知識が大事です。たとえば室内のドアも、オランダの法規では900×2300mmが最小サイズなので、たとえば幅500mmの扉なんてつくれません。逆にこのプロジェクトでは、自分の身体感覚を持ってスケールを考えることができたと言えます。

梅林 幅500mmとは、かなり狭いですね。茶室に行かれたことはありますか？ 千利休の「待庵」のような。

クラウス ありません。

梅林 たった二畳の空間に主客が対峙するんです。きっと驚かれますよ。中は真っ暗で、奥行きがわからないように操作されていて、とても小さいのに無限を感じさせる空間です。そこでは所作もデザインされていて、身体感覚と建物がインテグレートされているんです。この住宅とも共通項は多いと思います。

クラウス この建物では階段をどこまで急にできるか、ということにも挑戦しました。酔っ払って帰ると転ぶのではないかともしましたが(笑)、慣れれば大丈夫でした。

梅林 日本のスケール感を意識して設計されているんですね。しかし私たちにとっては普通のスケールなんです(笑)。

クラウス 確かに、広さとは相対的な価値だとつくづく思います。一方で日本はものづくりの力があるので、それも生かしたかった。この階段の踏面は、段ごとに形やサイズが細かく異なっています。こんなものをスチールで、常識的な金額でつくるのは日本ならではです。

梅林 新鮮なのは、「コンパクト」についての感覚が私たちと違うことです。日本人の場合、もっと雑居的に作り込んでしまうことが多い。台湾などに行くと「六本木ヒルズを建ててくれ」とよく言われて面食らうことがあります。でもよく聞いてみると、小さなスペースで完結したエネルギー環境を持ち、利回りがよいコンパクトな複合施設が欲しいという意味なんです。いま日本の建築家に期待されていることは、コンパクト・マネジメントなのかな、とも感じています。一方でこの住宅の場合は、日本の良さがヨーロッパの言葉で翻訳されているなあ、と感じますね。

クラウス 私は基本的に、複雑な操作はしないんです。将来的にはオフィスになるかもしれないです。フレキシブルにシンプルに、抽象的につくったのです。

梅林 法的に可能な最大寸法のサッシを使った3階の開口部や、ゆったりとした天井高は、日本の狭小住宅にはないスケールだと思います。

クラウス 3階はなるべくオープンにしたかったんですよ。眺望から考えると、この家はフロアごとに近隣が変化するんです。1階はご近所、3階は渋谷の街、そして屋上は東京全体なんです。

ヨーロッパから見た、東京・狭小住宅のエッセンス



Felix Claus

フェリックス・クラウス

建築家

1956年オランダ生まれ。

デルフト工科大学卒業。

クラウス・エン・カン・アーキテクテン主宰。

スイス連邦工科大学チューリッヒ校
客員教授。

1997年レナン大賞、

2000年ハーレム市建築賞、

2005年レンスフェルト建築賞、

2009年golden Amsterdam architecture
prize受賞。

www.clausenkaan.nl



アイブルグのオフィス (Amsterdam, 2007年)
©Christian Richters

1P, 3P, 4P 「神宮前の家」(2007年)
設計: Felix Claus, in cooperation with Souhei Imamura
Atelier IMAMU, Tokyo.



WEST VOICE

いよいよ、8月上旬に、東京・青山に新ショールームをオープンします。内装は近藤康夫さんをお願いして、一回りしても飽きないような仕掛けをしています。ヒントは、お客様に特に高い評価をいただいている「アルミ素材の扱い方」で、インテリアにもウエストらしさを感じていただけるはず。私たちもオープンを心待ちにしています。

WEST代表取締役社長 西康雄・談

梅林 日本の古い言葉に「市中の山居」という言葉があります。それと似たような感覚が込められていますね。東京は通りに面して高いビルが並んでいても、内側は住宅街で静かです。ところで、東京で小さな建物をつくった経験は、どう活かされていますか？ クラウスさんにとって、特殊な位置づけにある作品なのでしょうか。

クラウス 確かに個人住宅を手がけることは少ないですし、施主が個人であることすらほとんどありません。ですからこの住宅は特殊です。ただしそれに気づく人はなかなかいない。空間的に固さや厳しさを持っている点では共通しているの、やはりクラウス・エン・カーンのプロジェクトだと見られます。

梅林 私は「アイブルグのオフィス (Amsterdam, 2007年)」も好きなのですが、こちらもクライアントワークではありませんね。

クラウス 我々のオフィスです。その建物は階高が一般的なものよりかなり高く、フロアによっては4mもあるんです。オフィスでは多くの場合、スタンダードを超える天井高にはできません。

梅林 高さで使い方の多様性を担保する考え方なんです。町家などと同じです。あちらでは、周辺一帯の開発も手がけているんですね。

クラウス アムステルダム近郊の、湖の埋め立てで人工的につくられた住宅地で、複数の建築家が参加しており、我々もハウジングを手がけています。オランダは土建国家で、建築家なしのプロジェクトはありません。でも日本に比べると効率が悪いと感じることも多いですね。決まりをつくり、建物をつくって、また決まりをつくる、とプロセスに時間がかかります。しかも注意深くつくる一方で、できあがった都市が日本よりハイクオリティかという、そうでもない。東京に来ると、あのエネルギーはなんだったんだろう？ と考えさせられます。

梅林 日本でもヨーロッパ型の都市計画への信奉はあったんですが、我々の世代からは、まずは日本の都市の現状を肯定する考え方になってきています。

クラウス オランダの公的なハウジングプロジェクトでは、いかに低予算で最低限の機能を備えた住宅をつくるかが課題になります。最終的には公共的に重要な部分、たとえば共用部やドアノブなどに予算を割きにくいんです。メンテナンスフリーで頑丈な空間を求められるけど、ハードにつくればつくるほどラフに使われてしまいます。金物は大切な部分ですので、そうした面にはジレンマがありますが、逆にインテリアなら可能性があるでしょう。

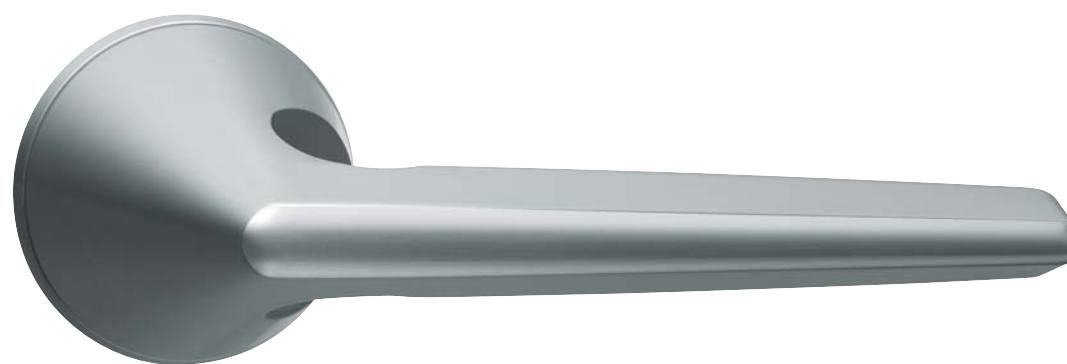
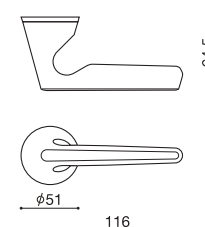
Next
WEST meets 五十嵐 淳

間の門

撮影: 宮本誠也



Agaho basis Lever Handle 146



WEST CORPORATION

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM *2010.AUG OPEN
5-11-15 MINAMI-AOYAMA, MINATOKU, TOKYO, 107-0062 JAPAN.
TELEPHONE: 03-3499-9260 FACSIMILE: 03-3499-9263

OSAKA OFFICE / SHOW ROOM
4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.
TELEPHONE: 06-6221-5777 FACSIMILE: 06-6221-5888

株式会社ウエスト

東京オフィス/ショールーム *2010年8月上旬オープン
107-0062 東京都港区南青山5丁目11番15号
TEL: 03-3499-9260 FAX: 03-3499-9263

大阪オフィス/ショールーム
541-0042 大阪府大阪市中央区今橋4丁目3番22号
TEL: 06-6221-5777 FAX: 06-6221-5888

WEST PRESS 4

2010年7月30日発行

Art Direction:
藤脇慎吾
Text:
平塚桂 (はむ企画)
Photo:
繁田諭 (Nacasa & Partners Inc.)
Edit:
publica